

壊れゆく“若者たち”

File.75 デジタル症候群 ~増幅するモラル低下Youtuber

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

Youtuberによるモラル低下は、とどまるところを知らぬ状況になってきています。今回ニュースになったへずまりゅう氏（以下、へずま氏）は、スーパードで会計前に刺身を食べることでたくさん批判を呼びました。そればかりか、このへずま氏は全国を巡っていたことから、COVID-19の感染を助長してしまったということで、山口県知事が名指しで批判する事態にまでなりました。さらには逮捕後も移送先の愛知県警で感染拡大を招いている状況にあり、悪い影響が多方面に広がっています。

当該のへずま氏は、傍若無人ぶりがひどく、首里城公園に設置された焼失した首里城正殿の復興応援メッセージの寄せ書きの上から落書きをする動画を投稿しており、世間を敵に回すような要素を多々持っていました。

Youtuberはなぜこうも炎上を招くのでしょうか。それは炎上するレベルの過激なことを実施しないと視聴数が伸びないということが背景にあります。これは完全なる悪循環で一定数確保してきたファンを維持するために、さらに過激なことを繰り返し返さないと自分の収益を確保できないのです。

その世間の常識から逸脱しないとい



Profile
東京都大田区生まれ。
英国ウエールズ大学MBA（経営管理修士）。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
株式会社クロコ取締役COO。
長年コールセンター運営に携わり、人と人のコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
becall103-6420-2088
<http://www.beall.jp/>

けない定めから抜け出すことができなくなり、今回のような事態に至っています。YouTubeは現時点でモラルに制限がありません。テレビのような放送責任が個人に起因しており、今回の件のような非常識な人たちがアクセスを集めがちな傾向が見られます。見ていて不快に思うのが個人の価値観であるように、それを「面白い、もつとやれ」と面白がって煽る層も存在しているのです。

これらの状況が後を絶たないのは、小中高生が将来なりたいたいものに「Youtuber」がランクインするというアンケート結果に見られるように、変なあこがれにYouTubeの配信者が位置していることも原因です。「有名になりたい」「好きなことでお金持ちになりたい」という安易な期待が、このようないびつな状況をつくり上げていると言えます。

しかし現実はその甘くありません。

世間からのバッシングは強く、社会復帰に大きな影響をもたらしてしまうことには、少し重すぎると感じます。

最高の結果を得る
「戦略的交渉の全技術」
石井通明
Business Negotiation Strategies and Tactics That Score the Best Deals

「対立をポジティブに解決する対話型の会話スキル」
「感情を制御して有利に導く心理学スキル」
「効果的な印象づけや謝罪の方法」 etc.

絶対にYesと言わせるには
「戦略的」な考えとスキルが必須!!
MBAの交渉学と心理学、現場の知恵を体系化

日本実業出版社
定価：1500円（税別）